

放課後子ども総合プラン指導者合同研修会①

職員研修
有志指導者研修
要請研修

「子どもが自ら育つ環境づくりのための大人の役割について理解する」「子どもの遊びと育ちの環境のあり方について学ぶ」を目的として、放課後児童クラブ及び放課後子供教室に携わる関係者 35 名の方が受講しました。

◆子ども環境の変化と 遊び・放課後の重要性

こども環境デザイン研究所 矢生 秀仁（やおい ひでひと）氏から「子どもが主役！子どもが豊かに育つ環境づくり～子ども達を取り巻くヒト、モノ、コト～」と題してご指導いただきました。

“遊びと子ども”では身体的な試行錯誤や失敗経験の不足、時間への耐性の変化についての説明があり、失敗や試行錯誤も含めた自由な時間の充実がより必要とのお話がありました。“社会と子ども”の生活環境の変化では、利害関係のない大人との出会いが少ない現状から、多様な価値観と方法に触れる機会の必要性などについてお話しいただきました。また、自分を育てる時間とすることができる「放課後の重要性」や“自己決定”“自己探求”“自己肯定”に関する「遊びの重要性」、不足体験の充実を支援する「大人の役割」等についても詳しくお話しいただきました。

演習では、新聞紙やアルミホイル、色画用紙など身近にあるものを使って、眼鏡や生き物、ゴルフ（球を転がす）コースなどを作りました。実際に活動する上で、表現することの嬉しさ・楽しさを感じられることや、思うようにいかない悔しさ・試行錯誤や葛藤・失敗など、教育的な視点で大切にしたいことについてお話がありました。先生の「下手でもいいんですよ」の言葉に“安心感を得られた”という受講者も多く、最後まで楽しみながら工作に打ち込む姿が見られました。



矢生 秀仁 氏



コースをつなぎ合わせる受講者

◆本県における放課後子ども総合プランの推進について



岩手県教育委員会事務局生涯学習文化財課 松川 仁紀 主任社会教育主事より、国や本県における放課後子供教室や放課後児童クラブ、児童館の設置状況や趣旨・目的、推進方策等説明いただきました。具体的な数値や推進に向けた今後の取り組みの説明をとおして「新・放課後子ども総合プラン」について理解を深めました。

《受講者の声》

- 学校から帰ってきた子ども達が安心して過ごせる場所づくりの大切さを改めて感じる事ができた。子どもが主体的に活動できるよう、子ども達と話し合いながら工夫していきたい。
- “放課後”の必要性や子どもへの接し方など学ぶことがたくさんあり、とても有意義な研修会だった。
- 子どもに“考える”を基本に接することや、“生きているっておもしろい”と思えることがゴールというのが心に残った。

《受講者の評価》

A（有意義）	87.9%
B（どちらかといえば有意義）	12.1%
C（どちらかといえば有意義でない）	0%
D（有意義でない）	0%

《担当者（平澤）から》

子どもの主体性がより発揮できる「放課後」の役割や重要性についてたくさんお話がありました。それぞれの施設における様々な遊びや活動をとおして、子ども達一人ひとりがさらに自己肯定感を高め、自主性や社会性を向上させていくことが大切だと思いました。